

単元名 心に響いた『論語』を引用して、「自分へのメッセージ」を書こう

学級 3年1組
 指導者 目野登美恵（T1）
 秋元 美保（T2）

1 単元について

(1) 教材名

主教材 「論語」(『新しい国語3』東京書籍)
 補助教材 「百人一首式論語カルタ 絵入り」(公益財団法人孔子の里)
 図書教材

(2) 生徒観及び教材観

本学級の生徒は、4月実施の全国学力・学習状況調査において、無解答率が0～3%以下と低かった。しかし、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかを見る」問題では5.4%、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかを見る」問題では13.5%と、他に比べ高い数値を示した。また、正答率においても、県と比べ7%ほどの開きが見られた。以上のことから、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと」についての指導が必要だと考えられる。

本単元で使用する教材「論語」には、学問や人生に対する孔子の考えが述べられている。その考えに触れることによって、生徒は、古典の中の古人のものの見方、考え方が現代にも通じることに気づくとともに、自分自身の人生を見つめる契機になると考える。

(3) 授業観

「論語」は人の生きる道を考えるきっかけになるような言葉の宝庫であるので、自分の思いを伝えるために、「論語」を引用して文章を書く活動を設定する。

自分の思いを効果的に伝えるためには、書くための材料を整理しなければならない。また、伝えたい思いに対して、効果的な引用ができていようかどうかを確認することも必要となる。そこで、材料の整理、確認の作業を効果的に行うことができるよう、伝えたい思い、きっかけとなった体験・エピソード、引用部分、現代語訳を1枚のワークシートに記入する活動を設定した。その際、グループでアドバイスを合うという書く活動も取り入れた。

2 単元の指導目標

- (1) 古人のものの見方、考え方に親しみ、自分の体験と関連付けて考えを深めることができる。
- (2) 古典の言葉を引用し、自分の考えを書くことができる。

3 単元の評価規準

ア 古人のものの見方、考え方に関心を持ち、「論語」の文章を積極的に読もうとしている。

[関心・意欲・態度]

イ 「論語」の言葉と自分の体験を関連付けて読み、自分の考えを深めている。

[読む能力]

ウ 「論語」の言葉を適切に引用して、説得力のある文章を書いている。

[書く能力]

エ それぞれの言葉に表れている考え方を捉えた上で、体験や事例に当てはまるような「論語」の言葉を引用している。

[言語に関する知識・理解・技能]

4 単元指導計画・評価計画(全7時間 本時4/7)

次	時	学習活動【書く活動】	評価規準と評価の方法
1	1	1 学習目標を知り、学習計画を確認する。	ア 古人のものの見方、考え方に関心を持ち、「論語」の文章を積極的に読もうとしている。 【ワークシート・観察】
		2 「論語」について理解し、訓読文を確認する。	
	2	3 「論語」の言葉に表れている孔子の考え方を話し合う。	ア 古人のものの見方、考え方に関心を持ち、「論語」の文章を積極的に読もうとしている。 【ワークシート・観察】

2	3	4 「論語カルタ」を行って、「論語」に込められた孔子のメッセージに触れる。 【メモする】	ア 古人のものの見方、考え方に関心を持ち、「論語」の文章を積極的に読もうとしている。 【ワークシート・観察】
	本時	5 目的に合う引用部分を決める。 6 伝えたいことに対して引用部分が適切か考える。 【ワークシートに整理する】 【アドバイスを書く】	イ 「論語」の言葉と、自分の体験を関連付けて読み、自分の考えを深めている。【ワークシート・観察】 エ 体験や事例に当てはまるような「論語」の言葉を引用している。【ワークシート・観察】
	5 ・ 6	7 構成の工夫を確かめる。 8 「自分へのメッセージ」の下書きをする。 【下書きを書く】 9 「自分へのメッセージ」を推敲し清書する。 【清書を書く】	ウ 古典の言葉を適切に引用して、説得力のある文章を書いている。【ワークシート・観察】 エ 体験や事例に当てはまるような「論語」の言葉を引用している。【ワークシート・観察】
3	7	10 交流会を行う。 【評価カードを書く】	イ 「論語」の言葉と、自分の体験を関連付けて読み、自分の考えを深めている。 【ワークシート・観察・評価カード】

5 本時の授業（本時4／7）

(1) 本時の指導目標

「論語」の言葉と自分の体験を関連付けて考え、引用したい言葉を決めることができる。

(2) 本時の評価規準

イ 「論語」の言葉と自分の体験を関連付けて読み、自分の考えを深めている。【読む能力】

エ それぞれの言葉に表れている考え方を捉えた上で、体験や事例に当てはまるような「論語」の言葉を引用している。
【言語に関する知識・理解・技能】

(3) 本時の書く活動について

「自分へのメッセージ」を書く準備として、材料を整理するため、そして、引用が適切かどうかを確かめるため、ワークシートに整理する活動を設定する。また、グループ内でアドバイスを書く活動を取り入れることで、自分の作品を見直し、よりよい作品に仕上がることを期待したい。

(4) 本時の授業過程

過程	学習活動	形態	教師の指導・支援	評価とその方法
導 入	1 学習の見通しをもつ。	斉	1 学習計画表をもとに、本時の目標と学習の見通しを説明する。(T1)	
	めあて：心に響いたNo.1「論語」を決めよう			
展 開	2 自分の考えを書く時のポイントを確認する。	斉	2 汎用シートを活用して説明する。(T2)	
	3 伝えたい思い、そのきっかけになった体験、引用したい論語をワークシートに整理する。 【ワークシートに記入する】	個	3-(1) 書く時のモデルを示す。(T1) 3-(2) 伝えたい思い、きっかけになった体験、引用したい論語にずれがないか確認させる。(T1, T2)	イ 【ワークシート・観察】 エ 【ワークシート・観察】
	4 グループ学習の流れを確認し、アドバイスを書く。 【ワークシートに記入する】	G	4-(1) アドバイスのモデルを示す。(T1, T2) 4-(2) アドバイスの視点に沿って、アドバイスを記入しているか確認する。(T1, T2)	
ま と め	5 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 【振り返りを記入する】	斉	5-(1) 学習計画表のチェックと学んだことを記入させる。(T1) 5-(2) 次時は、構成を工夫して下書きをすることを確認する。(T1)	



心に響いた『論語』を引用して、「自分へのメッセージ」を書こう

学習課題

『論語』を引用して、「自分へのメッセージ」を書く。

つきたい力

- ① 古典の文章を、自分の体験と関連付けて読む力
- ② 古典の言葉を引用し、自分の考えを書く力



図書教材 / 論語カルタ / 論語					教材
5	4	3	2	1	時
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	日時
活用					流れ
<p>☆「自分へのメッセージ」の交流会を開こう</p> <p>□「自分へのメッセージ」の交流会を開く。</p>	<p>☆構成を工夫して、「自分へのメッセージ」を書こう</p> <p>□構成の工夫を確かめる。</p> <p>□「自分へのメッセージ」の下書きをする。</p> <p>□「自分へのメッセージ」を推敲し清書する。</p>		<p>☆心に響いたNo.1『論語』を決めよう</p> <p>□目的に合う引用部分（No.1『論語』）を決める。</p> <p>□伝えたいことに対して引用部分が適切か考える。</p>	<p>☆孔子のメッセージに触れよう</p> <p>□学習計画を確認する。</p> <p>□『論語』に込められた孔子のメッセージに触れる。</p>	<p>☆めあて □学習活動（できたら□にチェックを）</p>
交流会	推敲 清書	構成の工夫 推敲	引用 (No.1『論語』)	論語	キーワード
					学んだこと（学習のまとめ）

総合評価
A/B/C

この学習を通して身についた力



孔子のメッセージに触れよう

() (組 氏名)

*内容がだいたいわかったものには、□に□を入れよう。

*自分が引用しようと思うものには、() に○をつけよう。

A □ () ()



顔淵(がんえん) 第十二

B □ () ()



述而(じゆつじ) 第七

C □ () ()



衛霊公(えいれいこう) 第十五

D □ () ()



子張(しちよう) 第十九

E □ () ()



堯日(ぎようえつ) 第二十

F □ () ()



述而(じゆつじ) 第七

G □ () ()



堯日(ぎようえつ) 第二十

H □ () ()



雍也(ようや) 第六

I □ () ()



為政(いせい) 第二

J □ () ()



学而(がくじ) 第一

K □ () ()



衛霊公(えいれいこう) 第十五

L □ () ()



為政(いせい) 第二

参考資料 書籍名など	現代語訳	引用したい 『論語』の言葉

参考資料 書籍名など	現代語訳	引用したい 『論語』の言葉

参考資料 書籍名など	現代語訳	引用したい 『論語』の言葉

※おもての『論語』以外で、心に響いた言葉があった人はメモしておきましょう



自分の考えを書く

自分の考えを書くときには、読み手に伝わる文章を書く必要があります。どのようにすれば、説得力があり、相手に伝わる文章になるのか見てみましょう。

STEP5	STEP4	STEP3					STEP2		STEP1		確認				
5 表現	4 説得力UP		3 構成の工夫					2 文体		1 確かめる		確認			
文章の特徴に合わせたり、普段使わない言葉に挑戦したり、伝えたい内容にぴったり合う言葉を選びましょう	③ 予想される反論に対して、あらかじめ答えを入れている	② 説得力のある人の言葉や名文を引用している	① データや実際に体験した出来事が文章の中に入っている	③ 接続詞 接続詞の役割を把握して、効果的に利用する	② 書き出し d 出来事の説明から文章を書き出す c 感情の表現から文章を書き出す b 風景から文章を書き出す a 会話文から文章を書き出す	① 順序	c 双括型 結論 ↓ 理由 ↓ 結論 の構成	b 尾括型 理由 ↓ 結論 の構成	a 頭括型 結論 ↓ 理由 の構成	② 敬体	① 常体	③ 字数 何字以内で文章を書くのか確認する	② 目的 どんな目的で文章を書くのか確認する	① 読み手 誰を対象に文章を書くのか確認する	説明 ✓



心に響いたNo.1『論語』を決めよう

() (組 氏名)

1

心に響いたNo.1『論語』を決めよう

●心に響いたNo.1『論語』

●現代語訳

●伝えたい思い

●きっかけになった体験・エピソード

ずれていないかな？



参考資料

2

友達からアドバイスをもらおう

アドバイスの視点



- ① 「伝えたいこと」に対して、「きっかけになった体験・エピソード」が適切か
- ② 「伝えたいこと」と「引用部分」にずれがないか
- ③ 「伝えたいこと」に対して、適切な引用が他にないか

氏名

氏名

氏名

3

次時に生かしたいことをメモしよう





引用するときは

「引用」とは、本に書かれていることや、だれかが話したことの中から、必要な部分を取り出して自分の文章や話の中で使うことをいいます。引用は、いろいろなところで使われますが、そのためのルールがあります。どのようなルールがあるのか、見てみましょう。

引用するときの五つのルール

5	引用の前後に、自分の考えをつけ加えよう					
4	引用は、あまりたくさんにならないようにしよう					
3	「参考文献」として、書いた人・言った人の名前、引用した本の名前、ページなどを書こう					
2	『 』を使おう					
1	引用する文章や言葉は、「」でくくろう					
					約束	✓

引用するときの表現の例


- ○○は、□□が「」と云っていた。
- ○○は、□□の次のように書いている。「」
- ○○は「」と云っている。「」
- ○○の考えは、□□である。「」
- ○○…書いた人・言った人の名前
- □□…引用した本の名前、話した場面など

参考文献には、なにを書くの？

本の場合 「奥付」(最後のページ)を見よう

くまちゃんの冒険	→ ① 著者名
発行 2006年 9月 1刷	→ ④ 出版年
著者 杜野 隼	→ ② 書名
発行者 熊野 守	→ ③ 出版社名
発行所 ペアーズ出版社	→ ④ 出版年

新聞の場合



- ① 記事を書いた人
- ② 新聞記事名
- ③ 新聞紙名
- ④ 記事の出た年月
- ⑤ 朝刊か夕刊か
- ⑥ ページ

Webの場合

- ① Webページを制作した人・団体名
- ② Webページ名
- ③ Webサイト名
- ④ 更新年月日
- ⑤ URL
- ⑥ アクセス年月日



交流シート

3年

*それぞれの項目について、「5・4・3・2・1」で評価し、合計点を出しましょう。



	氏名	引用の仕方は適切か	引用と伝えたいことが一致しているか	説得力があるか	合計点
1					
		一言コメント			
2					
		一言コメント			
3					
		一言コメント			
4					
		一言コメント			
5					
		一言コメント			
6					
		一言コメント			
7					
		一言コメント			



単元 心に響いた『論語』を引用して「自分へのメッセージ」を書こう

参考資料 百人一首式論語カルタ絵入り(公益財団法人孔子の里)

No.	✓	論語(書き下し文)	現代語訳
12		絵のことは素きを後にす	絵をかくとき白色顔料はあとからする。人間の場合も素質をまず大切にしておとから礼儀を身につけな。
11		益者三友損者三友	よい友として三つある。損になる友も三つある。
10		内に省みて疚しからずんばそれ何をか憂え何をか懼れん	反省して良心に恥じるこゝろがないならば、何も心配したりおそれたりするこゝろはない。
9		疑わしきには問を思ふ	わからないときは質問をしましな。
8		威あれど猛からず	孔子さまは威厳があるがおそろしい感じはしない人であった。
7		怒りを遷わす	怒りを他へ転嫁してはいけな
6		行くに徑に由らす	目的を達成するのに決して近道はしません。
5		未だ生を知らず焉んぞ死を知らん	生きることは難しい。まだ生きるこゝろがわからないので、死の意味などこゝろもわからな。
4		過ては則ち改むるに憚ることなけれ	過ちに気づいたらあつたさりとあやまりな。
3		欺くこと勿かれ而して之を犯せ	上司をだましてはいけなが、言うべきこゝろはこゝろから言つべきだ。
2		迹を踏まず亦室に入らす	真剣に過去を学んで先人の足跡をたどらなと本当の道はわからな。
1		朝に道を聞けば夕べに死すとも可なり	わが身に修めたいものが、すっかり自分のものになるならば死んでも満足である。
No.	✓	論語(書き下し文)	現代語訳



単元 心に響いた『論語』を引用して「自分へのメッセージ」を書こう

参考資料 百人一首式論語カルタ絵入り(公益財団法人孔子の里)

No.	✓	論語(書き下し文)	現代語訳
12		絵のことは素きを後にす	絵をかくとき白色顔料はあとからする。人間の場合も素質をまず大切にしておとから礼儀を身につけよ。
11		益者三友損者三友	よい友として三つある。損になる友も三つある。
10		内に省みて疚しからずんばそれ何をか憂え何をか懼れん	反省して良心に恥じることがないならば、何も心配したりおそれたりすることはない。
9		疑わしきことは問を思ふ	わからないときは質問をしましよ。
8		威あれど猛からず	孔子さまは威厳があるがおそろしい感じはしない人であった。
7		怒りを遷わす	怒りを他へ転嫁してはいけない
6		行くに徑に由らず	目的を達成するのに決して近道はしません。
5		未だ生を知らず焉んぞ死を知らん	生きることは難しい。まだ生きることがわからないので、死の意味などについてもわからない。
4		過ては則ち改むるに憚ることなかれ	過ちに気づいたらあっさりとおやめなれよ。
3		欺くこと勿かれ而して之を犯せ	上司をだましてはいけませんが、言うべきことはしっかり言わねば。
2		迹を踏まず亦室に入らず	真剣に過去を学んで先人の足跡をたどらないと本当の道はわからない。
1		朝に道を聞けば夕べに死すとも可なり	わが身に修めたいものが、すっかり自分のものになるならば死んでも満足である。
No.	✓	論語(書き下し文)	現代語訳

No.	✓	論語（書き下し文）	現代語訳
26		君子は徳を懐 <small>おも</small> い小人は土を懐 <small>おも</small> つ	君子はよい行いを身につけることを思い、小人（徳のない人）は心身の楽なことだけを考える。
25		位 <small>くらゐ</small> なきを患 <small>うれ</small> えず立つ所以 <small>ゆゑ</small> を患 <small>うれ</small> つ	出世しないことを嘆くよりもその地位に立つだけの学問道徳を身につけているかどうかを気にしない。
24		君子は義 <small>ぎ</small> に喩 <small>たと</small> ひ小人は利 <small>り</small> に喩 <small>たと</small> る	君子は何事にも人の正しい道を考え、小人（徳のない人）は何事も自分の利益に結び付ける。
23		君子は食 <small>た</small> を終 <small>は</small> るの間 <small>あひだ</small> も仁 <small>に</small> に違 <small>たが</small> つこと無し	君子はごはんを食べるわずかの間でも仁（感謝・礼儀）に反することはしない。
22		君子は和 <small>わ</small> つて同 <small>どう</small> せず	心ある人は人と仲良くはするが、わけもなへついではいかない。
21		君子は器 <small>うつ</small> なりず	器はひととおりのものしか使えませんが、教養のある人は、いろいろなことに役立ちます。
20		驥 <small>き</small> はその力 <small>ちから</small> を称 <small>しょう</small> せず其 <small>その</small> の徳 <small>とく</small> を称 <small>しょう</small> するなり	名馬はその走力をほめるのではなく、その乗りやすさをほめるのである。
19		義 <small>ぎ</small> を見て為 <small>な</small> さざるは勇 <small>ゆう</small> なきなり	正しいことをしなへてはならない時ひっこんでしまうことはひきょう者である。
18		学 <small>がく</small> は及 <small>およ</small> び及 <small>およ</small> びの如 <small>ごと</small> くすすむも猶 <small>なほ</small> 之 <small>その</small> を失 <small>な</small> わんこと <small>を</small> 恐 <small>おそ</small> む	「学問に終わりはない。」「とじて学びまわつていきますが、この、心がけをなへてしまつたことがおそろしい。
17		己 <small>おのれ</small> の欲 <small>ほつ</small> せざる所 <small>ところ</small> は人に施 <small>ほ</small> すこと勿 <small>なか</small> れ	自分がして欲しくないことは、人にもやらない。人の身になって思いやりをする。
16		己 <small>おのれ</small> に克 <small>か</small> ちて礼 <small>れい</small> に復 <small>かへ</small> るを仁 <small>に</small> と為 <small>な</small> す	欲を我慢して礼を戻せば人とつてすばしい。
15		教 <small>あ</small> え有 <small>あ</small> りて類 <small>るい</small> 無し	人は教育の仕方、善くも悪くもなる。初めから、善人悪人の類別はない。
14		終 <small>おひり</small> を懐 <small>こ</small> みと遠 <small>とほ</small> きを道 <small>みち</small> つ	年取った親をよくお世話して遠い祖先の恩を忘れぬ。
13		思 <small>おも</small> つて学 <small>がく</small> は及 <small>およ</small> び及 <small>およ</small> び則 <small>すなは</small> ち殆 <small>おほ</small> く	「もつこれでよい」「と思つて勉強をやめてはいけな
			い。独断することはあぶない。

No.	✓	論語（書き下し文）	現代語訳
40		詩に興り礼に立ち樂に成る	学問・礼・音楽で、情操豊かな人間として完成する。
39		三人行えば必ず我が師あり	三人一緒に行動するとその中に必ず先生としてふさわしい人がいる。
38		之に居りて倦むことなく之を行つて忠を以ってす	どのような職にいても初めから終わりまで怠ってはいけない。仕事に忠実にとりくみなれど。
37		之を賞すといえども竊まざる	どんなことがあってもどんなにほしくても盗んではいけない。
36		之を好む者之を樂しむ者に如かず	道を好む者は道を楽しむ者には及ばない。
35		之を知るを知ると為し知らざるを知らずと為す	知っていることとは「知っている」「とし、知らない」とは「知らない」としなれど。
34		是れ聞なり達に非ざるなり	有名人であっても、真の実力を備えた達人とはかきらない。
33		剛毅木訥仁に近し	意志がかたく勇敢で飾らず無口な人に悪い人はいない。
32		巧言令色鮮な仁	心にもないお世辞を言ったりお世辞笑いをする人は仁徳が少ない。
31		言ある者必ずしも徳あらす	口ではすばらしいことを言ってもその行いは立派でない人もいる。
30		賢を見ては斉しからんことを思ふ	かしこい人、すばらしい人を見ると、自分もああいうふうになりたいと思う。
29		君子は坦かにして蕩蕩たり小人は永えに戚戚たり	君子はのんびり、しかもゆったりしている。小人（心のせまい人）はいつまでも「せせこせこせよくよく」している。
28		君子はその言の其の行いに過ぐるを恥す	君子は自分の言ったことが自分の行動に伴わなければ恥ずかしいと思う。
27		君子は言讒にして行い敏なりんと欲す	君子たるもの口上手でなくても行動は敏活であってもらいたい。

No.	✓	論語（書き下し文）	現代語訳
41		仁を問う子曰わく人を愛す	仁とは人を愛することである。
42		小人は同じて和せず	心の狭い人は、人と妥協するけれども、真の和を保つことはできない。
43		小忍はひねれば則ち大謀を乱る	小さいことは我慢しないと大きな企画は失敗する。
44		仁に非せば悪いことなきなり	人を愛することにとめれば悪いことはしないことよ。
45		辞は達すのみ	言葉は自分の意志を伝えればよい。さらに語句を複雑華美にする必要はない。
46		十有五にして学に志す	私は十五歳の時に生涯にわたり学問をすることを決めた。
47		過ぎたるは猶及ばざるがごとし	何事もあんまりしすぎると逆効果である。
48		性相近きなり習相遠きなり	生まれつきは誰でもお互い似たようなものであるが、習慣や育ち方によって人間がすっかり変わってゐる。
49		備わらんことを一人に求むることなかれ	一人の人間に何もかも要求してはいけない。
50		その身を正しくするにいと能わずんば人を正しくするにいと如何せん	自分の行いを正しくできなければ人を正そうとしてもしようがない。
51		其の善からざる者にして之を改む	よくない人を見たら自分の反省材料にすればよい。
52		楽しみて淫せず悲しみて傷らさず	楽しみ過ぎて、人としての道を間違えてはいけない。悲しんでも絶望してはいけない。
53		近き者説へば遠き者来る	そこに住んでいる人々がよろこぶような政治をすれば、よその人も、慕ってくるようになる。
54		中庸の徳たるも其れ至れるかな	何事も極端に走らず一方に偏らずバランスよく生きる事が大事である。

No.	✓	論語（書き下し文）	現代語訳
55		知者は水を楽しみ仁者は山を楽しむ	知者は流れてやまない水（川）を愛し楽しみ、仁者は緑豊かできつりとした静かな山を愛し楽しむ。
56		知者は惑わず	正しい知識のある人はどんなことがあっても心が乱れることがない。
57		力足りざる者は中道にして廃す	力が足りないといふことは途中で怠るからである。
58		知を問う子曰わく人を知る	知とは人間を知ることである。
59		仕えて優なれば則ち学ぶ	仕事に自信がついたならば、さらに勉強しなさい。
60		罪を天に獲れば禱る所無きなり	天から罪を受けるような悪いことをすればどんなに祈ってもその罪から逃れられません。
61		天を怨みず人を尤めず	運が悪いと言って天をうらんだり人のせいにしてはいけない。
62		天何をか言わんや四時行われ百物生ず	天は何も言わないけれども春夏秋冬は自然とめぐっており、すべての物が生まれている。
63		朋有り遠方より来たる亦楽しからずや	友達がひょっこり遠くから訪ねてきました。こんなに楽しいことはない。
64		徳ある者は必ず言あり	心や行いの正しい人は（実践家）おのずとすばらしいことが言える。
65		徳は孤ならず必ず隣有り	徳ある人は決して孤立しない。必ず理解者や仲間が現れるものである。
66		遠き慮り無ければ必ず近き憂有り	遠い先のことまで見通しがないと足元のこつこつから上手くいきませぬ。
67		歳寒つして然る後に松柏の凋むに後るを知る	歳末の厳しい寒さにも松や柏の葉は落ちない。人も普段はわからないが、大変な時に本当の強さがわかる。
68		苗にして秀でざる者あり	せっかく芽をだしても成長しない人もいる。一生懸命努力をしましよ。

No.	論語（書き下し文）	現代語訳
69	任重くして道遠し	人間としての一生の任務はきわめて重く、そして目的ははるかに遠い。
70	佞人は殆し	口先だけ上手な人は信用がしにくい。
71	は 図らざるは楽を為すこと、斯に至らんと	まあ、音楽がこんなによいものだとは今まで思ってもみなかった。
72	秀でて実ひびく者あり	才能があっても実らない人がいる。人は努力が必要だ。
73	人の己を知らざるを患えず、其の不能なるを患ふるなり	自分が人に認められないことを嘆くより、自分が認められるだけの能力がないことを嘆きなさい。
74	敏にして学を好み、下問を恥じず	さとりがよくて学を好み、高い地位にいながら自分より下の者に問うことを恥じない。
75	排せずんば発せず	苦しんだあとでなければ上達しない。
76	故きを温ねて新しきを知る	古いことを研究すると、新しいことがよりよくわかる。
77	夫子の道は、忠恕のみ	夫子（孔子）様は自分を厚くして（忠）人を思いやること（恕）に一貫していた。
78	不義にして富み且つ貴きは、我に於いて浮雲の如し	不正不義をして得た富や地位は私から見ると、浮雲のようではかないものである。
79	便佞を友とするは損なり	口先だけが上手な人を友達にするのは損をする。
80	朋友に比しては、すれは斯に疎とせむ	友達に対しては、少しずいぶん嫌われる。
81	学びて時に之を習ふ亦、説はしからずや	学んで練習するとすっかり自分のものになってくるので、とてもうれしい。
82	先ず行つ、其の言は而る後に之に従ふ	まずは自分の考えを行ってみせる。それから主張する。

No.	✓	論語（書き下し文）	現代語訳
96		誅（つぐ）に口（くち）に神（かみ）の祇（あま）の祈（いの）る	しのび言葉に申します。天の神、地の神にお祈りす わびます。
95		利（り）に放（はな）りて行（い）えは怨（うら）多（おほ）し	自分の利益になることばかり考えて行くと多くの人 たちから恨まれる。
94		来（き）者の今（いま）に如（ごと）かかひるを知らんや	若い者は努力をすれば将来は、今の人以上に立派な 人になるであろう。
93		セ（ひ）して宿（やど）を射（い）ず	巢籠もりしている鳥は捕らない。人間は優しい心が 大切である。
92		善（よ）く人と交（まじ）わる久（ひさ）しくしてこれ（こ）を敬（けい）す	人とよく交際する。しかも長いお付き合いでも敬意 を失わない。
91		勇（ゆう）者は懼（おそ）れず	勇気があればおそれることはなし。
90		逝（ゆ）く者は斯（かく）の（と）きか昼（ちゆう）夜（や）をおかす	川の流れはあのように昼夜ともなく流れてやまな い。人の世もいつの間にか過ぎ去ってしまっている。
89		約（やく）を以（もつ）て之（これ）を失（な）す者は鮮（あま）し	思いがあって勝手にするとおろすき、くじらがあ ります。控え目に失敗はない。
88		黙（もく）して之（これ）を識（し）し学（まな）びて厭（いと）わす	口には出さないが、何でもみわかっていて、そこ で学ぶことをちっとも嫌とは思わない。
87		命（いのち）と與（よ）に（と）と與（よ）にす	天から与えられたつとめを尽くす（使命を果たす） だけでなく、人の道にも背かないようにす。
86		紫（むら）の朱（しゆ）を尊（たふ）つを憎（にく）む	紫の色が喜ばれ、もともと朱色がおろそかにされ て残念です。
85		躬（み）自ら厚（あつ）くして責（せ）むれば則（すなは）ち怨（うら）み遠（とほ） かる	自分を厳しく責めると人からはうらまれない。
84		道（みち）に志（こころ）し徳（とく）に拠（よ）りて術（ぎゆ）に依（よ）りて芸（ぎ）に遊（あそ）ぶ	学問の道に励み、心や行いを正しく、人に優しく、 そして芸術も楽しむ。
83		貧（ひ）して怨（うら）む無（な）きは難（たが）く富（た）みて驕（おご）る無 かれ衆（あまた）	貧しくてひがまないようにするのはとても難しい が、金持ちで威張らないようにするのはまだやむこ い。



No.	97	98	99	100
✓				
論語（書き下し文）	礼を知らざれば以て立つこと無きなり	勞して怨みず	吾日に吾が身三省す	吾が道は一以って之を貫く
現代語訳	礼を身につけなければひとり立ちはできない（自立できない）。	嫌なことであっても不服そうな顔をしない。	私は毎日自分のしたことをしばしば反省します。	私の生き方はただ一つの道理をもってこれを貫く。